

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	熊本大学	申請大学長名	谷口 功
申請類型	複合領域型（生命健康）	プログラム責任者名	竹屋 元裕
整理番号	I 0 2	プログラムコーディネーター名	糸 昭苑
プログラム名	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム H I G O		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラムでは、大学-行政-産業界の密接なタイアップによって、医学・薬学・生命科学等を基盤とする健康生命科学の広く深い専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観（主にアジア）を連結することで、国際・地域社会の諸課題とニーズを俯瞰的に捉えて、その解決に挑戦できるグローバル（グローバル+ローカル）な「健康生命科学パイオニア」としてのリーダーを養成する。

医学・薬学・生命科学等から重要点を抽出・統合して、文理融合型の育成コースを新規開設し、中核となる生命科学分野における高度な専門性を持ちつつ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となったグローバル社会文化科学を通して、日本とアジア、歴史と文化、行政経済と社会倫理などを理解することで、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。具体的には、医療・保健、創薬・薬事、教育・研究など、健康生命科学の諸分野で、ひとの健康の維持・増進に寄与し、コミュニケーション能力を磨いて、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動し、次代を担う産官学の新しいコラボレーションを創出できるグローバル社会リーダーの輩出を実現する。

熊本大学は、全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。本プログラムは、大学院先導機構の統括的な指揮の下に実施され、学長主導の大学改革の核となる。

2. プログラムの進捗状況

平成25年度は、1年間を通じてプログラムを実施する初めての年であることから、実施・運営体制の整備、カリキュラムの実施、教育システムの構築、学生支援策の策定・実施、プログラム履修生の獲得に向けた取組、広報の充実等を行った。具体的には以下のとおりである。

1. 実施・運営体制の整備

(1) 専任教員の採用

特任教員を25.5.1に5名、25.6.1に1名採用した。また、26.4.1からグローバルな視点からの教育、学生支援充実のため外国人の特任教員を1名採用予定。

(2) 支援職員の採用

26.2.1から留学生の相談対応、説明会等における同時通訳等の支援充実のため、特に英語の堪能な職員を採用した。

(3) 評価会議の設置

評価会議要項を制定し、評価委員の内諾を得た。平成24、25年度の活動状況を基に平成26年度に評価実施予定。

2. 教育カリキュラムの実施

(1) 研究室ローテーションの実施

医学、薬学、生命科学全般における幅広い学問領域の基礎力と最先端研究について学ぶことにより、俯瞰的、多角的な視点から問題解決に挑むことができる質を涵養するため、研究室ローテーションを実施した。

(2) 語学講座の実施

国際的視野を持つ、コミュニケーション能力を育成するため、外部講師による、中国語講座、英語講座および日本語講座を開講した。

(3) 社会文化科学総論の開講

社会文化科学科目の基盤となる「社会文化科学総論」を、社会文化科学関係プログラム担当教員である高橋、上野、安川が担当し開講した。

(4) 行政、企業、最先端研究セミナーの充実

平成25年度は、多くの行政機関、企業等に協力をいただき、11回の行政セミナー、18回の企業セミナー、68回の最先端研究セミナーを実施した。

(5) インターンシップの実施

平成25年度は、新日本科学、化学及び血清療法研究所、熊本日新新聞社において企業インターンシップを、天草市、熊本県において行政インターンシップ、上海、ワシントンDCにおいて海外インターンシップを実施した。

(6) 教育の質の確保

基礎コース2年のコース生に対し、修士論文審査の一環として、論文を提出する前に、HIGOプログラム独自の社会文化科学に関する成果をまとめたレポートのプレゼンおよび審査を行った。また、Qualifying examinationとして、4年コース2年の学生を対象に、リサーチプロポーザルと履修状況確認のための中間インタビューを実施した。

3. 教育システムの構築

(1) eポートフォリオの構築・運用

HIGOプログラム履修生(コース生、準コース生)の授業への出席状況、レポートの提出状況を管理するとともに、レポートの採点等の管理を行うため、eポートフォリオを構築し、運用を開始した。

(2) eラーニングシステムの活用

授業に出席できない学生の履修をサポートするため、講義、セミナー等のeラーニングによる受講を開始した。

4. 学生支援策の策定・実施

(1) 平成25年度から、新たに、学会参加費、論文投稿費等の支援、および独創的教育研究支援経費の支援を行った。25年度の支援状況は次のとおり。

学会参加費：(国外)11件、(国内)15件、論文等公費：1件、独創的教育研究支援経費：4名

(2) メンター制度の確立

指導教員および特任教員によるマルチメンター制度を新たに導入した。

5. プログラム履修生の獲得に向けた取組

(1) 海外リクルートの充実

平成25年度は、インドネシアにおける熊本大学フォーラムを初めとして、中国、台湾、タイ、ミャンマー、マレーシア、フィリピンにおいて、学生獲得を目的としたHIGOプログラムのプロモーション活動を行った。

(2) 準コース生の受入

HIGOプログラム独自の特色あるカリキュラムを受講することで、多くの学生が社会との結びつきを自覚し、自発的にグローバル社会に進出できるよう、新たに準コース生の制度を設け、平成25年度は14名の学生を受け入れた。

6. 広報の充実

(1) 多言語パンフレットおよび広報用DVDの作成

日本語、英語、中国語によるパンフレットおよび広報用DVDを制作し、海外でのプロモーション活動や学生への説明会等に活用した。

(2) ホームページの充実

学生や教員からの要望を踏まえ、ホームページの充実を図った。

7. その他

(1) 学生からの意見、要望等の聴取

運営委員会に学生が出席し直接委員に要望事項の説明や、学生ミーティングに特任教員が参加するなど、学生からの意見、要望を直接聴取するよう努めた。

(2) 熊本知識者円卓会議（熊本版ダボス会議）における履修生の政策提言

熊本の産官学のトップで構成する熊本知識者円卓会議において、HIGOプログラムの3名のコース生が「日本、そして熊本は世界に対して何をなすべきか」のテーマで知事、熊本市長、経済同友会代表幹事、熊本商工会議所会頭、大学長に対し政策提言のプレゼンテーションと意見交換を行った。

(3) リーディングフォーラムにおける優秀賞の受賞

大阪で開催されたリーディングフォーラムにおいて、専門、国籍等の異なるコース生でチームを作り、ハラルに着目したビジネスプランを提案し、優秀賞を受賞した。

(4) 学生フォーラムの企画

平成25年度に兵庫県立大学で開催された学生フォーラムにコース生が自主的に参加し、平成26年度は熊本での開催を提案し、了承された。現在、九州大学、長崎大学のリーディングプログラムと連携し、6月21、22日の開催に向けて準備中。

(5) ビデオ会議システムの活用

平成24年度に導入したビデオ会議システムを活用し、運営委員会の開催、特任会議の実施、また、セミナーの配信などを行った。